

	シーズ名	イノベーション、技術経営、大学発ベンチャー、戦略的提携
	氏名・所属・役職	創造都市研究科 小関珠音
<p><概要></p> <p>先端科学技術を基盤とするイノベーション創出を目指した技術経営に関する研究に従事している。</p> <p>(1) 大学発ベンチャーとイノベーション 大学発ベンチャーにおいては、創業当初に経営に必要な人材や能力がすべて整っているとは限らない。そこで起業時点から、大学研究者の関与の方法や調整、非連続的な成長・拡大に伴うガバナンス設計・調整の必要性を把握し、大学及び大学研究者の関与の在り方について、あらかじめ方向性を定めておく必要がある。</p> <p>(2) 戦略的連携とイノベーション 科学技術の創出から実用化までのプロセスにおいては、産学の各アクターの効果的な連携が必要となる。例えば、有機 EL 分野においては、九州大学および山形大学より基礎発明が生まれ、産学官連携活動の連鎖によって、その科学技術が企業に移転された。大学で創出された科学技術の社会への普及と、その経済的価値の創出のための理論フレームワークが必要である。</p> <p>また、鴻海のシャープ買収に見られるように、企業間連携においては、日本企業の従来からの提携パターンと比較して、大きく容容をとげている。このような戦略的提携は、新分野の市場創造、産業形成、さらには、個別企業の企業価値を向上させるためにも効果がある。</p> <p>昨今の社会的及び経営環境の変化を踏まえ、イノベーションを生み出すための戦略的連携の設計・調整の在り方について研究を行っている。</p> <p><アピールポイント></p> <p>金融等実業界での実務経験、及び大学発ベンチャー企業等3社の創業実務経験(1社は兼業申請承認)における経験的知識、既存/新規の実業界でのフィールドワーク、及び複数事例の比較研究より、これらの活動これまで明らかにされてこなかった課題を抽出している。その課題に対し、イノベーション創出プロセスの段階ごとに仮説を組み立て直し改良しながら、抽出された要素を指標化して、理論フレームワークを構築する。研究成果は、今後の研究成果活用事業における適用可能性を検討し、理論フレームワークを深化させ、次の研究につなげる。</p> <p>応用可能な社会科学の理論フレームワークの創出を目指している。</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>構築された理論フレームワークは、既存/新規の大学発ベンチャーや産学連携活動における活用が見込まれる。</p> <p><関連する知的財産権></p> <p>特になし。</p> <p><関連するURL></p> <p><他分野に求めるニーズ></p>		
キーワード	イノベーション、技術経営、大学発ベンチャー、戦略的提携、有機 EL	